

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目	看護研究の基礎	担当教員	佐藤 美幸	単位	1	学習時間数	30
目的	看護研究に必要な基礎的知識を習得し、科学的に看護を探究することのできる姿勢を養う。						
目標	情報処理の基礎知識を活用し、看護で活用するデータの収集・処理方法・読み方・表し方の基礎を学ぶ。						
回	項 目	内 容			教授学習方法		備 考
1.2	看護研究の基礎的知識 1	1 看護研究とは 2 看護研究の意義と目的 3 研究テーマを探す 4 文献検索・文献検討			講義 (情報機器の利用)		
3.4	看護研究の基礎的知識 2	1 文献を読んでみよう 2 研究計画書とは 3 研究計画書に含まれる内容			講義		
5.6	看護研究の基礎的知識 3	1 概念枠組み 2 研究デザイン（実験研究） 3 研究デザイン（調査研究）			講義		
7.8	看護研究の基礎的知識 4	1 研究デザイン（質的研究） 2 研究デザイン（事例研究） 3 研究の倫理的な問題			講義		
9.10	看護研究の基礎的知識 5	1 研究計画書を立ててみよう			講義 (情報機器の利用)		
11.12	データ整理の仕方	1 データの整理の仕方（量的研究） 2 データの整理の仕方（質的研究）			講義 (情報機器の利用)		
13.14	研究のまとめ方	1 研究論文としてまとめる 2 発表する			講義 (情報機器の利用)		
15	試験						

評価の方法 : 筆記試験 (80点) 演習の提出物 (20点)

テキスト : 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目	社会学	担当教員	桑畑 洋一郎	単位	1	学習時間数	30
目的	社会学の基本的な概念を学び、社会学的なものの見方・考え方を理解する。						
授業概要	社会学の基礎的な視点を学ぶとともに、個々の人間や地域社会などが抱える今日的な課題について考え、これからの看護のありかたを学んでいく。						
回	項目	内 容				教授学習方法	備 考
1	社会学とは何か	社会学はどのような学問であるかを創始者であるコントの社会学とその後の社会学について学ぶ。				講義	
2	社会学研究方法	社会学の研究方法・対象となる行為、相互作用、社会関係、集団、全体社会を学ぶ。				講義	社会学理論と研究方法
3	家族と人間	家族の定義・形態、家族の構造と機能、そして、現代の家族代表である核家族について学ぶ。				講義	地位と役割
4	現在の家族問題	現在家族の抱えている問題と現在の小家族化・高齢化の社会の特徴と課題について学ぶ。				講義	
5	地域社会と生活（農村）	伝統的な社会としての農村社会、そのもつ構造と機能と農村社会の暮らしについて学ぶ。				講義	
6	地域社会と生活（都市）	都市社会はどのようにして形成されたか。我が国の都市と西洋都市の違いについて学ぶ。				講義	
7	農村社会の課題	農村社会の仕組み（構造と機能）と我が国の農村社会の特徴を学ぶ。過疎と高齢化				講義	
8	都市社会の課題	都市社会の仕組み〔我が国の都市（構造と機能）〕を学ぶ。都市への人口集中（過密問題）				講義	
9	現代社会のコミュニケーションの課題	現代のコミュニケーションの特徴、親密性の病理について学ぶ。派生形態としてのマス・コミュニケーション				講義	第2回の授業：相互作用と関連
10	差別と偏見	多様な差別現象と「いじめ」などがなぜ生まれるのか、その解決策を学ぶ。ラベリングの視点と対抗ラベリング				講義	
11	現代における組織の課題	組織社会が抱える問題と病院という組織社会の現状と課題を学ぶ。				講義	
12	専門職の課題	現在専門職の抱える問題、そして看護師のおかれた現状と課題を学ぶ。ストレス、バーンアウトなど				講義	
13	現代社会の課題	地域包括ケアの時代における医療と福祉の現状と課題を学ぶ。				講義	
14	社会調査の方法	社会学の実証的研究方法を学ぶ。アンケート調査と事例調査法の質問作成と調査法について学ぶ。理論と調査の関係				講義	第2回の授業と関連
15	試験	まとめと試験				講義	

評価の方法：筆記試験

テキスト：系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院

参考文献：その都度紹介

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目	文学	担当教員	坂東 智子	単位	I	学習時間数	30
目的	文学作品を通して、自然の美しさや人の心の機微を感じ取ることのできる感性を養うとともに、人間に対する理解を深める。						
目標	1 古典和歌や現代短歌を現代語訳することによって文章の基礎を学び、同時に内容を理解することによって人間的な感性を養う。 2 コミュニケーション能力を高め、自分の思いを相手に伝える練習を通して、説明文を中心に文章が書けるようにする。						
回	項目	内 容			教授学習方法		備 考
1		詩			講義		
2		ことばとは			講義		
3		短歌と和歌はどう違う？			講義		
4		新しい短歌の始まり			講義		
5		近代短歌から現代短歌へ - 様々な短歌を味わう -			講義		
6		「楽しみは」で始まる短歌を作ってみよう			講義		
7		時代による表現の仕方の違いを知る			講義		
8		様々な技法を知る			講義		
9		自作短歌を紹介しあおう			講義		
10		文章の構成			演習		
11		文章の構成			演習		
12		文章の表現			演習		
13		文章の表現			演習		
14		書き方実例			演習		
15		試験					

評価の方法 : 授業内レポート 筆記試験

テキスト : なし（授業資料配布）

令和7年度シラバス(第二看護学科)

30期生 2年次

授業科目	人間関係論	担当教員	水田 亘	単位	I	学習時間数	30
目的	人間関係のダイナミクスに対する理解と、目的に応じ役割関係を展開する人間関係能力を養う。						
目標	看護のための人間関係論 ～知識と実践～ 自己理解と人間理解 ～コミュニケーション能力～						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備考
1	対自的コミュニケーションⅠ	自己紹介 人間関係論概要				講義及び演習	
2	対自的コミュニケーションⅠ	人間関係を学ぶ問題意識 自己と他者①				講義及び演習	
3	対自的コミュニケーションⅡ	自己と他者② V. フランクフルについて				講義及び演習	
4	対自的コミュニケーションⅡ	人間関係の基盤 言語・認知				講義及び演習	
5	対他的コミュニケーションⅠ	対人関係 基礎理論①				講義及び演習	
6	対他的コミュニケーションⅠ	対人関係 基礎理論②				講義及び演習	
7	対他的コミュニケーションⅡ	現代社会と人間関係				講義及び演習	
8	対他的コミュニケーションⅡ	家族と人間関係				講義及び演習	
9	対他的コミュニケーションⅢ	治療関係とカウンセリングの理論①				講義及び演習	
10	対他的コミュニケーションⅢ	治療関係とカウンセリングの理論②				講義及び演習	
11	対他的コミュニケーションⅣ	看護ケアや社会福祉援助における人間関係①				講義及び演習	
12	対他的コミュニケーションⅣ	看護ケアや社会福祉援助における人間関係②				講義及び演習	
13	対他的コミュニケーションⅤ	看護のための人間関係 エンパワーと解決志向				講義及び演習	
14	対他的コミュニケーションⅤ	地域と人間関係				講義及び演習	
15	筆記試験						

評価の方法：筆記試験(100点)

テキスト：なし

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目		臨床医学Ⅰ (生命維持機能障害・外科疾患)		単位	1	学習時間数	30
担当教員	非常勤講師	実務経験	有 無	主な実務経験場所		備考参照	
目的	臨床における呼吸・循環疾患・外科疾患の病態生理、治療、検査について学ぶ。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考	
1～2	呼吸器疾患	肺炎・肺気腫・肺循環障害・肺腫瘍他			講義	長門総合病院 医師： 須田 博喜	
3～4	放射線医学	放射線を利用した検査と治療 放射線療法 防護			講義		
5～8	循環器疾患	狭心症・心筋梗塞・不整脈			講義	山口県立総合 医療センター 医師： 池田 安宏	
9～14	外科疾患	胸部外科（肺がん・乳がん）・心臓外科 胃十二指腸疾患・結腸癌・胃がん・直腸癌 動脈瘤・イレウス・食道静脈瘤破裂 麻酔学			講義	長門総合病院 医師： 久我 貴之	
15	試験						

評価の方法：筆記試験 呼吸器疾患（15点）放射線医学（15点）循環器疾患（30点）外科疾患（40点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器、成人看護学3 循環器 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、臨床外科看護各論 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目		臨床医学 2 (内部環境調節・ 生体防御機能障害)		単位	1	学習時間数	15
担当教員	非常勤講師	実務経験	○・無	主な実務経験場所		備考参照	
目的	臨床における内分泌・代謝・腎泌尿器・アレルギー・膠原病・血液疾患の病態生理、治療、検査について学ぶ。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考	
1・2	内分泌・代謝疾患	甲状腺機能亢進症 糖尿病 高脂血症			講義	山口県立総合医療センター 医師： 竹田 孔明	
3～5	腎泌尿器疾患	腎腫瘍 膀胱腫瘍 尿路結石 腎不全(人工透析・腎移植)			講義	長門総合病院 医師： 北原 誠司	
6・7	アレルギー 膠原病 血液疾患	全身性エリテマトーデス 白血球 悪性リンパ腫 血友病			講義	長門総合病院 医師： 香月 憲作	
8	試験						

評価の方法 : 筆記試験：内分泌・代謝疾患（30点）、腎泌尿器疾患（40点）、アレルギー・膠原病・血液疾患（30点）

テキスト : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学4 血液・造血器、成人看護学6 内分泌・代謝

成人看護学8 腎・泌尿器、成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院

令和 7 年 度 シ ラ バ ス (第 二 看 護 学 科)

30期生 2年次

授業科目		臨床医学3 (認知・栄養機能障害)		単位	1	学習時間数	30
担当教員	非常勤講師	実務経験	有・無	主な実務経験場所		備考参照	
目的		臨床における脳外科・脳内科・精神・消化器疾患の病態生理、治療、検査について学ぶ。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考	
1～4	脳神経外科疾患	脳梗塞 くも膜下出血 脳腫瘍 頭部外傷 病態生理・症状・治療・検査			講義	都志見病院 医師： 金谷 妃呂子	
5・6	脳神経内科疾患	パーキンソン病 重症筋無力症 進行性筋ジストロフィー症 ALS 病態生理・症状・治療・検査			講義	萩慈生病院 医師： 多田 穰治	
7～10	精神疾患	統合失調症 気分障害 アルコール依存症 パーソナリティ障害 病態、病気の経過、治療			講義	山口県立こころ の医療センター 医師： 兼行 浩史 (4) 角田 武久 (4)	
11～14	消化器疾患	肝硬変（食道静脈瘤）肝癌・肝炎・胆嚢炎 胃がん・膵臓癌・結腸癌・直腸癌 潰瘍性大腸炎・クローン病			講義	長門総合病院 医師： 三谷 伸之	
15	試験						

評価の方法：筆記試験 脳神経外科疾患（30点）、脳神経内科疾患（10点）、精神疾患（30点）、
消化器疾患（30点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 7 脳・神経、成人看護学 5 消化器 医学書院
専門分野 精神看護学 1 精神看護の基礎、精神看護学 2 精神看護の展開 医学書院

令和 7 年 度 シ ラ バ ス (第 二 看 護 学 科)

30期生 2 年次

授業科目		臨床医学 4 (運動・性機能障害・小児疾患)		単位	1	学習時間数	30
担当教員	非常勤講師	実務経験	有 無	主な実務経験場所		備考参照	
目的		臨床における運動器・女性生殖器・母性・小児疾患の病態生理、治療、検査について学ぶ。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考	
1～3	運動器疾患	骨折 慢性関節リウマチ 脊髄損傷 病態生理・症状・治療・検査			講義	長門総合病院 医師： 谷 泰弘	
4～8	女性生殖器 母性疾患	月経の機序・月経異常・無月経 子宮筋腫・子宮がん・更年期障害 胎児の生理・分娩時の異常 妊婦の生理・妊娠の異常・子宮外妊娠			講義	長門総合病院 医師： 中島 健吾	
9～14	小児疾患	代謝性疾患・内分泌疾患 免疫アレルギー疾患・感染症 呼吸器疾患・循環器疾患 消化器疾患・血液造血器疾患 悪性新生物・腎泌尿器疾患 神経疾患・運動器疾患			講義	長門総合病院 医師： 青木 宣治	
15	試験						

評価の方法：筆記試験 運動器疾患（20点）、女性生殖器・母性疾患（40点）、小児疾患（40点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器、成人看護学 10 運動器 医学書院

小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院

母性看護学 1 母性看護学概論、母性看護学 2 母性看護学各論 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目		薬理学		単位	I	学習時間数	30
担当教員	玉一 久美	実務経験	有・無	主な実務経験場所		長門総合病院(薬剤師)	
目的		薬物療法の目的と人体への影響および薬物の管理について学ぶ。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考	
1・2	薬理学総論	1 薬物治療のめざすもの 2 薬はどのように作用するのか 3 薬はどのように体内をめぐっていくのか 薬の投与経路 4 薬効に影響する因子 5 薬物の有害作用はなぜおこるのか 6 薬の管理と新薬の誕生			講義		
3	薬理学各論 抗感染症薬	1 感染症治療に関する基礎事項 2 抗菌薬各論 (1) ペニシリン系抗生物質 (2) セフェム系およびその類縁抗生物質 (3) アミノグリコ抗生物質 (4) テトラサイクリン系抗生物質 (5) マクロライド系抗生物質 (6) 合成化学療法薬 3 特殊な感染症の治療薬 4 感染症の治療における問題点			講義		
4	抗がん剤	1 がん治療に関する基礎事項 2 抗がん剤各論			講義		
5	免疫治療薬	1 免疫反応のしくみ 2 免疫抑制薬 3 免疫増強薬 4 予防接種薬			講義		
	抗アレルギー 抗炎症薬	1 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 2 抗がん薬各論					
6	抗アレルギー 抗炎症薬	3 関節リウマチ治療薬 4 痛風・高尿酸血症治療薬 5 片頭痛治療薬			講義		
	末梢での神経活動 に作用する薬物	1 神経による情報伝達 2 自律神経系と薬の作用 3 交感神経作用薬 4 副交感神経作用薬 5 筋弛緩薬・局所麻酔薬					
7	中枢神経系に作用 する薬物	1 中枢神経系のはたらきと薬物 2 全身麻酔薬 3 睡眠薬・抗不安剤 4 抗精神薬 5 抗うつ薬 6 パーキンソン症候群治療薬 7 抗てんかん薬 8 麻薬性鎮痛薬			講義		
8	心臓・血管系に 作用する薬物	1 抗高血圧薬 2 狭心症治療薬 3 うっ血性心不全治療薬			講義		
9		4 抗不整脈薬 5 利尿薬 6 脂質異常症治療薬 7 血液に作用する薬物			講義		

10	呼吸器・消化器 生殖器系に作用 する薬物	1 呼吸器系に作用する薬物 (1) 気管支喘息治療薬 (2) 鎮咳薬・去たん薬・呼吸促進薬 2 消化器系に作用する薬物 (1) 消化潰瘍治療薬 (2) 健胃・消化薬と消化管運動促進薬 (3) 制吐薬 (4) 下痢と止痢薬 (5) 潰瘍性大腸炎治療薬・クローン病治療薬 (6) 駆虫剤 3 生殖器系に作用する薬物	講義	
11	物質代謝に 作用する薬物	1 ホルモンおよびホルモン拮抗薬 (1) 糖尿病治療薬 (2) 甲状腺疾患治療薬 (3) 下垂体ホルモン (4) 骨粗鬆症の治療薬 2 治療薬としてのビタミン	講義	
12	皮膚科用薬 眼科用薬	1 皮膚に使用する薬物 2 眼科外用薬	講義	
	救急の際に使用 される薬物	1 救急蘇生時に用いられるおもな薬物 2 救急・急変時の症状に対して用いられる薬物 3 急性中毒に対する薬物治療		
13	漢方薬	1 西洋薬と漢方薬はどこが違うのか 2 漢方薬はどのように使われているのか 3 漢方薬には副作用はないのか 4 漢方薬の有効性に関する客観的評価	講義	
	消毒薬	1 消毒薬とはなにか 2 消毒薬の種類と応用 3 消毒薬の適用		
14	輸液剤 輸血剤	1 輸液 2 輸血	講義	
15	試験			

評価の方法 : 筆記試験 100点

テキスト : 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 3 薬理学 医学書院

令和 7 年 度 シ ラ バ ス (第二看護学科)

30期生 2 年次

授業科目		公衆衛生学	単位	I	学習時間数	15
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所	
	非常勤講師		有・無		備考参照	
目的	公衆衛生のヘルスプロモーションを学び、自分自身の健康づくりとともに、家族や職場の健康づくり、地域での総合的な健康づくりを推進する方法論を学ぶ。 公衆衛生に関連する統計情報と衛生行政を知り、看護の役割について学ぶ。					
目標	1 公衆衛生の理念としくみについて理解する。 2 地域における公衆衛生の実践を理解する。 3 集団の健康をとらえるための疫学・保健統計について理解する。 4 環境と健康、感染症の予防と対策、健康危機管理の知識・技法について理解する。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考
1	公衆衛生とは何か 公衆衛生の歴史	1 公衆衛生の目的 2 公衆衛生の歴史 3 新たな公衆衛生の理念 (1) プライマリーヘルスケア (2) ヘルスプロモーション			講義	萩健康福祉センター 所長 高橋幸広
	公衆衛生の活動対象 公衆衛生のしくみ	1 社会集団 2 社会集団をとらえる視座 3 政策展開 4 国と地方自治体の役割			講義	
2・3	環境と健康 感染症とその予防策	1 疫学と健康指標 2 地球規模の環境と健康 3 身のまわりの環境と健康 4 日本の環境行政 5 国際保健 6 感染症とその予防			講義	萩健康福祉センター 所長 高橋幸広
4	地域における保健活動	1 地域保健 (1) 地域保健法 (2) 健康増進法 (3) 健康日本21 2 健康危機管理 3 災害保健			講義	長門健康福祉センター 保健師 福田昭子
5		1 母子保健 (1) 母子保健法 (2) 健やか親子21 (第2次) (3) 母体保護法			講義	滝川洋子
6		1 精神保健 (1) 精神保健医療福祉の施策 (2) 精神障害者 (児) の医療と福祉 (3) 心の健康対策 (4) 発達障害に関する医療と福祉 (5) 自殺対策基本法 2 難病保健			講義	長門健康福祉センター 保健師 坂田浩明
7	職場と健康	1 産業保健とは 2 労働者の健康問題 3 産業保健・看護の展開			講義	宇部フロンティア大学 立川美香
8	試験	試験				

評価の方法：筆記試験 (100点)

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院
国民衛生の動向 厚生統計協会

令和7年度シラバス(第二看護学科)

30期生 2年次

授業科目		地域・在宅看護概論	単位	I	学習時間数	30
担当教員			実務経験	主な実務経験場所		
	村上 陽子 (20)		(有)・無	山口県立総合医療センター		
	非常勤講師 (10)		(有)・無	備考参照		
目的	地域で暮らす療養者とその家族を支える看護及び保健医療福祉の役割と多職種連携について理解する。					
目標	1 地域で暮らす療養者とその家族の特徴を理解する。 2 地域で暮らす療養者とその家族の暮らしを支える看護を理解する。 3 地域・在宅看護に関連する保健医療福祉の理解と多職種連携・協働について理解する。 4 地域・在宅の場で看護をするための心構えを理解する。					
回	項目	内 容	教授学習方法	備考		
1	地域・在宅看護の対象 家族の理解と支援	1 地域・在宅看護の対象者としての家族 (1) 家族の理解 (2) 地域における家族への看護	講義			
2		1 暮らしの環境を整える看護 2 広がる看護の対象への看護の提供方法	講義			
3	地域における暮らしを支 える看護	1 地域での暮らしにおけるリスク (1) 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 (2) 居宅等における看護師への暴力・ハラスメントの 防止対策 (3) 地域での暮らしにおける災害対策	講義 演習			
4	地域・在宅看護における 多職種連携	1 訪問看護における多職種連携・協働 (1) 医療専門職との連携 (2) 福祉専門職との連携 (3) 介護支援専門職との連携 (4) 多職種連携からのネットワークづくり	講義			
5		1 地域・在宅看護にかかわる制度 (1) 介護保険・医療保険制度 (2) 医療法、医療介護総合確保推進法 (3) 障害者総合支援法、難病法	講義 演習			
6	地域・在宅看護にかかわ る制度と活用	2 訪問看護制度の歩み 3 訪問看護の対象者の特徴 (1) 疾患からみた対象者の特徴 (2) 障害からみた対象者の特徴	講義 演習			
7・8		4 訪問看護サービスの仕組みと提供 (1) 訪問看護の利用者と訪問回数 (2) 訪問看護ステーションに関する規程 (3) 訪問看護の利用までの手順・費用 (4) 訪問看護サービスの提供 (5) 権利保障に関する法律 (守秘義務・個人情報保護)	講義 演習			
9	暮らしの場で看護をする ための心構え	1 意思決定支援パートナーシップ 2 セルフケアを支える対話・コミュニケーション	講義			
10	医療・福祉・介護関係者との 連携 協働の実践	1 地域ケア会議の実際 2 地域・住民とともに行う地域・在宅看護 マネジメント	講義	萩市地域包括支援 センター 保健師:俣賀由紀子 主任ケアマネ ジャー		
11	地域医療福祉連携室の機 能と役割	1 病棟と外来の連携 2 地域連携クリニカルパス(地域との連携) 3 相談業務 4 退院支援・退院調整の実際	講義	長門総合病院 看護師 松野多希子		
12	居宅介護支援事業所の機 能と役割	1 ケアマネジメントと社会資源の活用の実践	講義	長門総合病院 介護支援専門員: 野村有美恵		
13・14	地域看護活動	1 健康福祉センター活動の実際	講義	萩健康福祉セン ター保健師 福田敦子 太庭麻沙子		
15	試験					

評価の方法:筆記試験 課題レポート(100点)

テキスト : 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院
 写真でわかる訪問看護 インターメディア

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目		地域・在宅看護援助論Ⅰ (在宅看護技術・看護実践)	単位	1	学習時間数	30
担当教員			実務経験		主な実務経験場所	
	村上 陽子(18)		○・無		山口県立総合医療センター	
	非常勤講師 (12)		○・無		備考参照	
目的	在宅で療養する人とその家族の暮らしを支える看護実践を学ぶ。					
目標	1 在宅療養生活を支える看護援助を理解する。 2 在宅療養を支える看護活動の実際と訪問看護師の役割について理解する。 3 リハビリテーション期にある対象者の看護を理解する。					
回	項 目	内 容		教授学習方法	備考	
1	地域における生活を支える看護援助	1 療養環境の調整		講義		
2		2 活動・休息の援助		講義 演習		
3		3 食生活・嚥下への援助				
4		4 排泄の援助				
5		5 清潔・衣生活の援助				
5	在宅療養生活を支える主な治療に応じた看護援助	1 経管栄養法を受ける療養者の援助（胃瘻）		講義 演習		
6		2 在宅中心静脈栄養法（HPN）を受ける療養者の援助				
		3 創傷管理（褥瘡の予防とケア）				
		4 ストーマ管理				
		5 尿道留置カテーテルの管理とケア				
		6 腹膜透析の管理とケア				
7		7 呼吸・循環に関する技術 （1）在宅酸素療法（HOT）を受ける療養者の援助 （2）在宅人工呼吸器（HMV）を受ける療養者の援助 ・非侵襲的陽圧換気（NPPV） ・気管切開下陽圧換気（TPPV） （3）排痰法と吸引				
8		8 与薬（服薬、在宅自己注射） 9 苦痛の緩和・安楽確保に関する援助				
9	リハビリテーション看護	1 リハビリテーションの定義と理念 （1）障害者の実態 （2）障害の分類と構造 （3）リハビリテーションの分類		講義・演習	長門総合病院 理学療法士： 大谷一幸	
10		2 運動器系の障害の動向				
11		3 関節リウマチのリハビリテーション				
		4 骨折のリハビリテーションプログラム				
		5 中枢神経障害のプログラム				
11		1 言語聴覚療法		講義	長門総合病院 言語聴覚士： 山根祐樹	
12		2 失語症・嚥下障害				
12		1 リハビリテーションに関わる職種		講義	長門総合病院 作業療法士： 木下大介	
13		2 A D L・廃用症候群				
13	訪問看護の実際	1 訪問看護師の役割		講義	訪問看護ステーション陽向 看護師：阿武由美子	
14		2 訪問看護の特性				
		3 目指す訪問看護師				
		4 訪問看護の内容				
		5 訪問看護の実際（訪問の仕方）				
		6 終末期にある療養者への看護				
		7 難病にある療養者への看護				
15	8 小児の療養者への看護					
15	9 地域や医療機関との連携					
15	試験					

評価の方法：筆記試験 演習内容 課題レポート（配点：大谷20点 山根10点 木下10点 村上60点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の実践 医学書院
 写真でわかる訪問看護 インターメディカ

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目		成人看護援助論Ⅰ (呼吸・循環機能障害の看護・周術期の看護)		単位	1	学習時間数	30	
担当 教員	実務経験			主な実務経験場所				
	水津 達郎 (24)		(有)・無	山口県立総合医療センター				
	非常勤講師 (2)		(有)・無	備考参照				
	非常勤講師 (2)		(有)・無	備考参照				
	非常勤講師 (2)		(有)・無	備考参照				
目的	呼吸機能、循環機能に障害のある対象、周術期、集中治療を受ける対象を理解し、健康レベルに応じた看護を学ぶ。							
目標	1 循環機能に障害がある対象とその看護を理解する。 2 呼吸機能障害のある対象とその看護を理解する。 3 周術期、集中治療をうける対象とその看護を理解する。							
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考		
1	循環機能障害のある対象の看護	1 循環機能障害の原因と機能障害 ポンプ機能障害 血管・リンパ管障害 刺激伝導系の障害			講義	【テキスト】 成人看護学3 (循環器)		
2		2 虚血性心疾患のある患者の病期や機能障害に応じた看護 安静療法 薬物療法 食事療法						
3		3 心不全、不整脈のある患者の機能障害に応じた看護 心電図、ペースメーカー						
4		4 心臓、血管の手術療法を受ける患者の看護 開心術、ステント内挿入術						
5		5	CCUの看護、内科的治療、検査を受ける患者の看護			講義	山口県立総合医療センター 看護師：副島智子	
6	呼吸機能障害のある対象の看護	1 呼吸機能障害の原因と機能障害 酸素化障害 換気障害 呼吸運動障害			講義	【テキスト】 成人看護学2 (呼吸器)		
7		2 慢性閉塞性肺疾患のある患者の病期や機能障害に応じた看護						
8		呼吸機能検査 動脈血液ガス分析						
9		3 肺がんのある患者の病期や機能障害に応じた看護 気管支鏡検査 肺生検 胸腔穿刺 肺切除術						
10	周術期にある対象の看護	1 術前の看護 (1) 手術療法の理解を促す看護 (2) 意思決定支援と看護 (3) 術後合併症のリスクアセスメントと看護 (4) 術前オリエンテーション (5) 不安のアセスメントと看護			講義	【テキスト】 成人看護学総論 臨床外科看護総論		
11		2 術後の看護 (1) 手術侵襲と生体の反応 (2) 術後の疼痛管理 (3) 創傷管理とドレーン管理 (4) 術後合併症の予防 (5) 機能障害や生活制限への看護						
12		3 手術室看護の実際 (1) 手術室内の環境と看護 (2) 手術室看護師の役割 (3) 術前から手術、手術室退室までの看護 (4) 手術方法、手術体位による影響と看護 (5) 麻酔方法による影響と看護 (6) 術中の安全管理			講義	萩市民病院手術室 看護師：岡あゆみ		
13		4 ボディイメージの変化に対する看護 5 乳がんのある患者の病期や機能障害に応じた看護 マンモグラフィ 乳房超音波検査 乳房切除術			講義	【テキスト】 成人看護学9 (女性生殖器)		
14		ICUの看護	集中治療室の看護 全身管理、呼吸器が必要な患者の看護			講義	山口県立総合医療センター 看護師：高橋健二	
15		試験						

評価の方法：筆記試験、レポート（水津100点）

テキスト：系統看護学講座 成人看護学Ⅰ 成人看護学総論 医学書院
 系統看護学講座 成人看護学Ⅱ 呼吸器、成人看護学Ⅲ 循環器、成人看護学Ⅳ 女性生殖器 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、臨床外科看護各論 医学書院
 実習でよく挙げる看護診断・計画ガイド 照林社
 看護診断ハンドブック 医学書院
 看護過程に沿った対応看護 学研

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目		成人看護援助論2 (栄養・代謝機能障害の看護)		単位	1	学習時間数	20
担当教員			実務経験		主な実務経験場所		
	水津 達郎 (14)		○・無		山口県立総合医療センター		
	非常勤講師 (6)		○・無		備考参照		
目的	代謝・体温調節機能、栄養摂取機能に障害のある対象を理解し、健康レベルに応じた看護を学ぶ。						
目標	1 代謝・体温調節機能に障害のある対象とその看護を理解する。 2 食事療法の実際を理解する。 3 栄養摂取機能に障害のある対象とその看護を理解する。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備考
1	代謝・体温調節機能障害のある対象の看護	1 患者の特徴 ホルモン血中・尿中濃度試験 ホルモン負荷試験 生活への影響				講義	【テキスト】 成人看護学6 (内分泌・代謝)
2		2 甲状腺疾患のある対象の病期や機能障害に応じた看護 甲状腺ホルモン療法、甲状腺切除術					
3		3 代謝機能障害の原因と機能障害 4 2型糖尿病のある対象の病期や機能障害に応じた看護 糖負荷試験 血糖自己測定 運動療法・薬物療法の援助 糖尿病の合併症予防と生活指導					
4		5 脂質異常症のある対象の病期や機能障害に応じた看護 高尿酸血症のある対象の病期や機能障害に応じた看護				講義	【テキスト】 栄養学 管理栄養士： 柴田至且
5		臨床栄養 (1) 栄養・代謝疾患患者の食事療法へ支援 糖尿病患者の食事療法				調理実習	
6		(2) 糖尿病患者の食事療法の実際					
7	栄養摂取機能障害のある対象の看護	1 栄養摂取機能障害の原因と機能障害 咀嚼・嚥下障害の原因と程度 消化管機能障害 膵液分泌障害 膵炎				講義	【テキスト】 成人看護学5 (消化管) 臨床外科看護 総論 臨床外科看護 各論
8		2 腹腔鏡手術を受ける対象の看護 胆のう摘出術					
9		3 胃がんをもつ対象の病期や機能障害に応じた看護 上部消化管内視鏡検査 上部消化管造影検査 手術後ドレナージ					
10		4 大腸がんをもつ対象の病期や機能障害に応じた看護 大腸内視鏡検査 下部消化管造影検査 大腸切除術 人工肛門造設術					
		5 食道がんのある対象の病期や機能障害に応じた看護 食道切除術 6 膵臓がんのある対象の病期や機能障害に応じた看護 膵臓切除術					
	試験						

評価の方法：筆記試験（水津100点）

テキスト：系統看護学講座 成人看護学5 消化器、成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論、臨床外科各論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 栄養学 医学書院
 看護診断ハンドブック 医学書院
 看護過程に沿った対応看護 病態生理と看護のポイント 学研

令和7年度シラバス(第二看護学科)

30期生 2年次

授業科目		老年看護援助論Ⅰ (加齢による生活変化)	単位	I	学習時間数	30
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所	
	林 千恵子(18)		(有)無		山口県立総合医療センター	
	高島 雄太(10)		(有)無		山口県立こころの医療センター	
	非常勤講師(2)		(有)無		備考参照	
目的	加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を理解し、高齢者の生活を支える看護を学ぶ。					
目標	1 老年看護の基本を理解する。 2 加齢変化により起こる症状の理解と、生活への影響を理解する。 3 高齢者の主要症状に添った看護を理解する。 4 日常生活援助に必要な看護技術を理解する。 5 治療を受ける高齢者への看護を理解する。					
回	項目	内容			教授学習方法	備考
1	老年看護の基本	1 老年看護とは (1) 老年看護の役割 (2) ICFモデル (3) 高齢者のアセスメント			講義	林
2	日常生活を支える看護	1 食生活			講義	
3		2 排泄				
4		3 清潔				
5		4 休息と睡眠				
6		5 活動 (1) フレイル (2) サルコペニア				
7	加齢変化によって起こる主要症状と看護	1 身体的徴候			講義 グループワーク	高島
8		(1) 痛み				
9		(2) かゆみ (3) 脱水 (4) 浮腫 (5) 褥瘡				
10	高齢者の治療と看護	1 薬物療法を受ける高齢者の看護 (1) 加齢に伴う薬物動態の変化 (2) 高齢者に特徴的な薬物有害事象 (3) 服薬管理とリスクマネジメント			講義	
11		2 手術療法を受ける高齢者の看護 (1) 手術が高齢者に与える影響 (2) 術前の看護マネジメント (3) 術後の看護マネジメント				
12	高齢者の安全管理	1 高齢者と医療安全 (1) 高齢者特有のリスク要因 (2) 高齢者がみまわれやすい医療事故と対策			講義	
13	看護過程の展開	1 高齢者の特徴をいかした看護過程			講義 グループワーク	
14		(1) 生活行動モデルによる看護過程 (心不全のある患者の看護) (2) 目標志向型思考				
15	透析看護	1 腎不全のある患者の看護 2 透析を受ける患者の看護(入院・在宅)			講義	都志見病院 看護師: 伊藤裕二
試験						

評価: 筆記試験(林:50点 高島:50点)

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 病態・疾患論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研
 看護診断ハンドブック 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目		小児看護援助論Ⅰ (さまざまな状況にある小児と家族 への看護)	単位	1	学習時間数	30
担当 教員			実務経験	主な実務経験場所		
	篠田 由佳里 (22)		有・無	山口県立総合医療センター		
	非常勤講師 (4)		有・無	備考参照		
	非常勤講師 (2)		有・無	備考参照		
	非常勤講師 (2)		有・無	備考参照		
目的	健康障害や入院が小児とその家族の生活に及ぼす影響について理解し、健康障害をもつ小児とその家族の看護について学ぶ。					
目標	1 小児の健康障害や入院が小児とその家族の生活に及ぼす影響について発達段階別、健康障害の経過別に理解する。 2 小児を理解するための方法と技術を理解する。 3 さまざまな状況にある小児とその家族の看護を理解する。					
回数	項 目	内 容		教授学習方法	備考	
1・2	病気や入院が小児と家族に与える影響	1 小児看護における倫理 2 病気や入院が小児と家族に与える影響 3 病気になった小児と家族		講義 事例検討		
3	さまざまな状況にある小児と家族の看護	1 検査や処置を受ける小児と家族の看護 (1) 発達に応じたプレパレーション (2) 小児とコミュニケーション		講義 グループワーク		
4・5		(3) フィジカルアセスメント		講義		
6・7・8		(4) バイタルサイン測定 (5) 身体計測		演習	講義(2時間): 篠田由佳里 演習(4時間): 萩市民病院 看護師 小田友美	
9		(6) 検査と処置時の看護		講義		
10		2 活動制限が必要な小児と家族への看護 3 感染対策上隔離が必要な小児と家族への看護				
11		4 外来における小児と家族 (1) 緊急度の把握・トリアージ (2) 受診時の小児と家族 (3) 安全の確保と緊張と不安の軽減 (4) 家庭での療養生活に対する支援の実際		講義	萩市民病院 看護師 伊勢嶋真由美	
12	救急救命処置が必要な小児と家族の看護	1 小児の事故・外傷の特徴 2 小児の緊急におけるトリアージと対応 3 主な誤飲物質と処置 4 小児の熱傷の特徴・重症度及び処置 5 溺水と処置 6 頭部外傷		講義		
13	災害を受けた小児と家族の看護	1 小児への影響とストレス 2 小児と家族への援助				
14	発達障害のある小児の家族の支援	1 障害のある小児と家族の看護 (1) 障害のある小児と家族の特徴 (2) 障害のある小児と家族への援助の考え方		講義	萩総合支援学校 特別教育支援士 教諭: 藤井佳樹	
15	試験					

評価の方法 : 筆記試験 (95点) ・個人ワーク (5点) により総合的に評価する。

テキスト : 系統的看護学講座 専門分野 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論 医学書院

系統的看護学講座 専門分野 小児看護学Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院

参考文献 : 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目		小児看護援助論2 (健康障害をもつ小児と家族への看護)		単位	1	学習時間数	30
担当教員	篠田 由佳里	実務経験	有・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	小児特有の疾患を中心に疾病の病態を理解し、健康障害をもつ小児とその家族の看護について学ぶ。						
目標	1 小児特有の疾患を中心に疾病の病態、症状、診断、検査、治療、予後、看護について理解する。 2 健康障害の病態を理解し、小児とその家族の看護について理解する。						
回	項目	内容				教授学習方法	備考
1	急性症状のある小児と家族の看護	1 急性期の特徴と看護				講義	
2		2 発熱時の看護					
3		3 脱水時の看護					
4		4 下痢・嘔吐がある児の看護					
	5 呼吸困難がある児の看護						
	6 けいれんがある児の看護						
	7 循環器疾患をもつ小児と家族への看護						
5	周手術期における小児と家族の看護	1 小児の手術の特徴				講義 DVD視聴	
		2 手術を要する健康障害と手術の時期					
6		3 計画手術と緊急手術					
	4 日帰り手術						
	5 手術を受ける小児と家族への看護						
7	慢性期にある小児と家族の看護	1 疾患の特徴と治療、疾患による小児と家族の変化				講義 DVD視聴	
8		2 小児のセルフケアの獲得への援助と家族への看護					
9・10・11		3 医療的ケアを必要として退院する小児と家族在宅療養への移行に向けた支援と看護				グループワーク	
	4 ネフローゼ症候群の事例を通して小児・家族への看護を検討する						
12	終末期にある小児と家族の看護	1 小児の死の概念				講義 DVD視聴 グループワーク	
		2 死に対する小児の反応					
13		3 終末期にある小児の心身の状態と緩和ケア					
	4 小児の死を看取る家族の反応						
14	小児期特有の症状を持つ小児と家族の看護	1 先天的疾患のある小児と家族 2 心身障害のある小児と家族				講義	
15	試験						

評価の方法 : 筆記試験 (90点) ・個人ワーク (5点) ・グループワーク (5点) により総合的に評価する。

テキスト : 系統的看護学講座 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論 医学書院
 系統的看護学講座 小児看護学Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生2年次

授業科目		母性看護援助論Ⅰ (周産期の健康状態と看護)		単位	1	学習時間数	30
担当教員	小西 恵	実務経験	⑦・無	主な実務経験場所		都志見病院	
目的	妊娠、分娩、産褥及び新生児期の母子が経験する身体的、心理的、社会的変化を理解し、母子の健康の保持・増進・疾病の予防のために、家族を含めた看護を学ぶ。						
目標	1 妊娠・分娩・産褥及び新生児期の生理的变化と経過を理解する。 2 妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族に対して必要な看護を理解する。 3 周産期の健康状態が母性機能・母性役割の遂行に与える影響がわかる。 4 母性機能・母性役割遂行のために、疾病の予防の援助がわかる。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考	
1	妊娠期における看護	1 妊娠期の身体的・心理的・社会的特徴 (1) 妊娠の生理 (2) 胎児の発育と生理			講義		
2		(3) 母体の生理的变化			講義		
3・4		(4) 妊婦の心理的特徴 (5) 妊婦と家族及び社会			講義 グループワーク		
		2 妊婦と胎児の健康と生活のアセスメント (1) 妊娠の経過と診断 (2) 胎児の発育と健康状態の診断 (3) 妊婦と胎児の経過診断と生活のアセスメント (4) 妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント (5) 妊娠期のアセスメントの重要性					
		3 妊婦と家族の看護 (1) 妊婦が受ける母子保健サービス (2) 親になるための準備教育					
5・6・7	分娩期における看護	1 分娩の要素と経過 (1) 分娩の3要素 (2) 分娩の進行と産婦の身体的変化 (3) 産痛の機序 (4) 胎児に及ぼす影響 (5) 産婦の心理・社会的変化 2 産婦・胎児、家族のアセスメント (1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント (2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント 3 産婦と家族の看護 (1) 看護目標と産婦のニーズ (2) 安全な分娩への看護 (3) 安楽な分娩への看護 (4) 出産体験が肯定的になるための看護 (5) 基本的ニーズに関する看護			講義 グループワーク		
8	新生児期における看護	1 新生児の生理			講義		
9・10		2 新生児の健康状態のアセスメント 3 新生児の看護 (1) 出生直後の看護 (2) 出生後から退院までの看護			講義 グループワーク		
11	産褥期における看護	1 産褥期の身体的・心理的・社会的特徴 (1) 産褥の定義 (2) 退行性変化、進行性変化			講義 グループワーク		
12		(3) 産褥期の心理・社会的変化 2 褥婦と家族の看護 (1) 身体機能回復及び進行性変化への看護 (2) 児との関係確立への看護 (3) 育児技術にかかわる援助 (4) 家族関係再構築への看護			講義		
13・14	看護過程の展開	1 看護過程の展開 (1) マタニティサイクルにある対象の看護の特徴 (2) ヘルスプロモーション型診断とは 2 褥婦・新生児のアセスメント (1) 産褥経過の診断 (2) 褥婦の健康状態のアセスメント			講義 グループワーク		
15	試験						

評価の方法：筆記試験（80点） 課題（20点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学Ⅰ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学Ⅱ 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）
30期生2年次

授業科目		母性看護援助論2 (周産期の健康課題と看護)		単位	1	学習時間数	30
担当 教員	小西 恵 (24)		実務経験		主な実務経験場所		
	非常勤講師(2)		有・無		都志見病院		
	非常勤講師(2)		有・無		備考参照		
	非常勤講師(2)		有・無		備考参照		
目的		周産期に起こりやすいハイリスクな状態を学び、疾患の予防と看護を学ぶ。					
目標		1 妊娠・分娩・産褥及び新生児期におけるハイリスクな状態の母子及びその家族看護について理解する。 2 周産期の健康課題が母性機能・母性役割の遂行に与える影響がわかる。 3 母性機能・母親役割遂行のために、健康課題及び健康回復の援助がわかる。 4 母性看護における多職種連携について理解する。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考	
1	治療が必要な 母子への看護	1 ハイリスク妊娠 2 妊娠期の感染症 3 妊娠の異常と看護 (1) 妊娠悪阻の妊婦の看護 (2) 異所性妊娠の妊婦の看護 (3) 不育症・流産・早産の妊婦の看護			講義		
2		(4) 前置胎盤の妊婦の看護 (5) 常位胎盤早期剥離の妊婦の看護 (6) 妊娠高血圧症候群の妊婦の看護			講義		
3		(7) 血液型不適合妊娠の妊婦の看護 (8) 多胎妊娠の妊婦の看護 (9) ハイリスク妊婦の看護			講義		
4		4 分娩の異常と看護 (1) 分娩の3要素に異常のある産婦(胎児)の看護			講義		
5		(2) 急速遂娩を受ける産婦の看護 (3) 分娩時異常出血のある産婦の看護 (4) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 (5) 分娩時の損傷を生じた産婦の看護			講義		
6		5 新生児の異常と看護 (1) 新生児仮死と看護 (2) 分娩時外傷 (3) 低出生体重児・早産児の看護 (4) 高ビリルビン血症児の看護			講義	長門総合病院 助産師：藤本富美江	
7		(5) NICU・GCUに入院した児と家族の看護 6 産褥の異常と看護 (1) 子宮復古不全の褥婦の看護 (2) 発熱のある褥婦の看護 (3) 産褥血栓症の褥婦の看護 (4) 乳房トラブルのある褥婦の看護			講義		
8		(5) 精神障害のある褥婦の看護 (6) 児を亡くした褥婦・家族の看護			講義 DVD視聴		
9	女性生殖器疾患	1 女性生殖器疾患の看護 (1) 子宮頸がん・体がん・卵巣嚢腫			講義		
10	リプロダクティ ブヘルスケア	1 不妊治療を受けている人への看護			講義 DVD視聴		
11		2 外国人妊産婦と家族への看護 3 災害時の妊産婦及び新生児とその家族への看護			講義		
12	母性看護技術	1 妊婦体験 2 レオポルド触診法、NST装着・判断 3 子宮底長・腹囲測定 4 新生児バイタルサイン測定 5 沐浴(おむつ交換・臍処置) 6 授乳時の児の抱き方・排気			演習		
13	母性看護におけ る多職種連携	1 ハイリスク妊産婦への心理的関わり 2 多職種との連携			講義	山口県立総合医療セ ンター 臨床心理士/公認心理 師：山野上典子	
14		3 遺伝カウンセリング (1) 遺伝カウンセリングとは (2) 遺伝カウンセリングを受ける人への関わり (3) 多職種との連携			講義	山口県立総合医療セ ンター 認定遺伝カウンセ ラー：大下真美	
15	試験						

評価の方法：筆記試験（90点）演習（10点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 女性生殖器 成人看護学9 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目		精神看護援助論Ⅰ (検査・治療別看護)	単位	1	学習時間数	20
担当 教員		実務経験	主な実務経験場所			
	高島 雄太(16)	有・無	山口県立こころの医療センター			
	非常勤講師(4)	有・無	備考参照			
目的	精神に障害のある対象の疾患を理解し、検査・治療を受ける対象及びその家族への看護を学ぶ。					
目標	1 精神疾患・精神障害について理解する。 2 精神に障害のある対象の治療的環境について理解する。 3 精神に障害のある対象の検査及びその看護について理解する。 4 精神に障害のある対象の治療及びその看護について理解する。 5 精神看護における安全管理について理解する。					
回		内 容	教授学習方法	備考		
1 2	治療的環境	1 精神疾患患者の理解 2 精神障害者の権利擁護と倫理的問題 3 入院形態 4 行動制限と看護	講義			
3	検査時の看護	1 身体的検査 2 心理検査 (1) 知能検査 (2) 記憶力検査 (3) 人格検査	講義			
4 5 6 7 8 9	治療と看護	1 薬物療法時の看護 2 電気けいれん療法時の看護 3 心理・社会的療法と看護 (1) 精神療法 (2) 認知行動療法 (3) 心理教育 (4) 生活技能訓練(SST) 4 精神看護における安全管理	講義 講義・演習 講義	訪問看護ステーションという 看護師: 小西美恵子		
10	試験					

評価:筆記試験・レポートを総合的に評価(高島100点)

テキスト:系統看護学講座 専門分野 精神看護学Ⅰ 精神看護学の基礎 医学書院

系統看護学講座 専門分野 精神看護学Ⅱ 精神看護学の展開 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）

30期生 2年次

授業科目		精神看護援助論2 (症状別看護)	単位	1	学習時間数	30
担当 教員			実務経験	主な実務経験場所		
	高島 雄太:(30)		有 無	山口県立こころの医療センター		
目的	精神障害が対象の日常生活に及ぼす影響を理解し、障害を抱えながら生活する対象及びその家族への看護を学ぶ。					
目標	1 精神障害が日常生活に及ぼす影響を知り、その看護を理解する。 2 精神に障害のある対象の家族に対する看護を理解する。 3 精神に障害のある対象及び家族に対する看護の展開を理解する。					
回	項 目	内 容		教授学習方法	備考	
1	疾患別、 経過別看護	1 統合失調症		講義		
2		2 気分障害(感情)障害				
3		3 神経症性障害 ストレス関連障害 身体表現性障害				
4		4 パーソナリティ障害				
5		5 摂食障害 発達障害				
6		6 依存				
7		7 身体合併症 リエゾン精神看護				
8	家族への看護	1 家族のストレスと健康状態 のアセスメント 2 家族システムのアセスメント 3 患者-家族関係 4 家族のストレスと感情表出		講義		
9	精神看護の展開	1 精神看護の看護過程 (統合失調症のある患者の看護)		演習		
10						
11						
12						
13	援助関係の構築	1 援助関係の構築 (プロセスレコード)		講義		
14	地域におけるケアと 支援	1 ストレングスモデル 2 リカバリー 3 障害者総合支援法				
15	試験					

評価:筆記試験・グループワーク内容を総合的に評価(100点)

テキスト:系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護学の基礎 医学書院

系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護学の展開 医学書院

看護診断ハンドブック 医学書院

令和 7 年度 シラバス (第二看護学科)

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅰ (急性期実習)	担当 教員	水津 達郎	開講 年次	2年次～ 3年次	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	急性期にある対象を理解し、健康の各段階にある対象及びその家族に対し看護できる基礎的能力を養う。								
目標	1 周術期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2 周術期にある対象の健康上の課題を判断し、解決に導く方法を学ぶ。 3 周術期にある対象の健康状態に応じた支援方法を身につける。 4 周術期にある対象の生命の尊厳と人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 周術期の健康回復に向けて継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。 7 周術期にある対象及び家族との関わりをとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。								
実習計画	1 実習期間 11日間 2 実習施設 萩市民病院 (東病棟・西病棟・手術室) 3 実習方法 手術を受ける対象を受持ち、看護過程を展開し周手術期に必要な看護を行う。 手術を見学する。 (1) 病棟オリエンテーション、手術室オリエンテーション(実習2日目) (2) 初期計画検討カンファレンス(手術見学の日程を考慮し調整する。) 全体関連図・看護診断・看護計画を提示し、検討する。 (3) テーマカンファレンス (4) 学びの会(両病棟合同)(実習10日目) 情報共有し、学びを深める。 (5) 学内実習 (実習1日目) 対象理解を深めるため、疾患や治療の学習を行う。 事例に合わせた技術練習を行う。 (実習11日目) 実習の経験を振り返り、自己の学びをまとめる。 文献などでエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い、学びを深める。								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	講義・実習オリエンテーションで指示したテキスト及び資料								

令和 7 年度シラバス（第二看護学科）

授業科目	成人・老年看護学実習2 (慢性期・終末期)	担当 教員	高島 雄太	開講 年次	2年次～ 3年次	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	慢性期・終末期にある対象を理解し、健康の各段階にある対象及びその家族を支援する力を養う。								
目標	1 慢性期・終末期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2 慢性期・終末期にある対象の健康上の課題を判断し、解決に導く方法を身につける。 3 慢性期・終末期にある対象の健康状態と生活環境に応じた支援方法を身につける。 4 慢性期・終末期にある対象の生命の尊厳と人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。 7 慢性期・終末期にある対象との関わりをとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。								
実習計画	1 実習期間 11日間 2 実習施設 都志見病院（3階病棟・6階病棟・透析室） 3 実習方法 慢性期・終末期にある対象を1人受け持ち、看護過程を展開し必要な看護を行う。 (1) 病棟オリエンテーション（実習2日目） (2) 初期計画検討カンファレンス（実習3～4日目頃） 全体関連図・看護診断・看護計画を提示し、検討する。 (3) テーマカンファレンス（実習5日目頃） (4) 中間評価検討カンファレンス（実習7～8日目頃） 看護計画の評価・今後の看護の方向性を確認する。 (5) 学びの会（実習10日目） 情報共有し、学びを深める。 (6) 学内実習日 （実習1日目） 対象理解を深めるため、疾患や治療の学習を行う。 事例に合わせた技術練習を行う。 （実習11日目） 実習での経験を振り返り、自己の学びの確認をする。 文献などでエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い、学びを深める。 (7) 透析室実習（1日間：実習2週目以降） 血液透析と透析室看護の実際を見学する。 療養者と関わり、日常生活の実際を知る。 学びの会にて血液透析を受ける療養者の看護について学びを深める。								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	講義で使ったテキストおよび講義資料								

令和 7 年度シラバス（第二看護学科）

授業科目	小児看護学実習	担当 教員	篠田 由佳里	開講 年次	2年次～ 3年次	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的 小児の成長・発達を理解し、健康な小児と健康を障害された小児及びその家族に看護ができる									
目標 1 小児の成長・発達段階、健康状態、及び小児を取り巻く環境を理解する。 2 小児の成長・発達段階をふまえ、その子と家族のもつ力を引き出す看護を理解する。 3 小児の成長・発達及び健康状態に応じた基礎的看護技術を身につける。 4 小児の生命の尊厳と人権を尊重し、看護専門職として小児及び家族と援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 小児と家族を取り巻く保健医療福祉及び教育との連携を知り、多職種間における看護の役割を理解する。 7 小児看護学実習をとおして、その子らしい生活を支えるための看護を考える。									
実習計画 1 実習期間 11日間 2 実習施設 萩市民病院 東病棟 小児科外来 萩市保健センター 萩市山田保育園 萩市立明倫小学校 萩市立椿東小学校 萩市立椿西小学校 3 実習方法 実習ラウンドに基づき、それぞれの実習場所に分かれ、実習を行う。 (1) 病棟実習 (3日間) 入院中の小児を受け持ち、看護過程を展開し、必要な看護を実施する。 学びの会(病棟実習最終日) 情報共有し、学びを深める。 (2) 小児科外来実習 (1日) 外来を受診している小児の診察、乳児健診、予防接種の見学と介助を行う。 (3) 保健センター実習 (1日間) 保健センターで行われる母子保健事業(乳幼児健診、健康相談)に参加し、身体計測を行う。 小児の成長発達の実態とその評価方法、家族の育児支援、他職種との連携を見学する。 (4) 保育園実習 (2日間) 0～1歳児、2～3歳児、3～4歳児の各クラスで、デイリープログラムに沿って乳幼児と関わる。 (5) 小学校実習 (2日間) 保健室や学級で児童と関わり、保健室や授業の展開に沿って実習する。 他職種との連携について見学する。 (6) 学内学習日 (2日間) (実習1日目) 小児の事例を基にシミュレーションを行う。 (実習11日目) 実習での経験を振り返り、自己の学びをまとめる。 文献などでエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い学びを深める。									
評価方法 実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポートにより総合的に評価する。									
テキスト 講義・演習で用いたテキスト、講義資料									

令和7年度シラバス(第二看護学科)

授業科目	母性看護学実習	担当 教員	小西 恵	開講 年次	2年次～ 3年次	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	妊娠・分娩・産褥各期及び新生児期にある対象の特徴を理解し、母子とその家族に必要な看護ができる基礎的能力を養う。								
目標	1 妊娠・分娩・産褥各期及び新生児期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2 妊婦・産婦・褥婦・新生児（胎児）の状態を根拠に基づいて解釈・分析し、必要な看護を考察する。 3 妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な看護を身につける。 4 妊婦・産婦・褥婦・新生児（胎児）及びその家族の生命の尊厳と人権を尊重し、看護専門職として援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 母性看護における継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として、看護師の役割を理解する。 7 母性看護学実習をととして、その人らしい生活を支える看護について考える。								
実習計画	1 実習期間 11日間 2 実習施設 長門総合病院 3階病棟 産婦人科外来 3 実習方法 実習ラウンド表に基づき、学生1～2名でそれぞれの実習場所に別れ、実習を行う。 (1)病棟・外来オリエンテーション・手術室オリエンテーション（実習2日目） (2)褥室（4～5日間） 褥婦を受け持ち、看護過程を展開し必要な看護を行う。 テーマカンファレンスを行う。 (3)新生児室（2～3日間） 新生児1人を受け持ち、日数に応じた経過をたどっているかアセスメントし、必要な看護を行う。 新生児の看護やハイリスク新生児に関する知識・技術を習得する。 (4)分娩室（1日間） 分娩見学をととして看護に関する知識、技術を習得する。 (5)産婦人科外来（1日間） 2人の妊婦を受け持ち、妊娠経過をアセスメントし、必要な看護を行う。 (6)学びの会（実習10日目） 情報共有し、学びを深める。 (7)学内学習日 （実習1日目） 産褥期・新生児の事例をもとにシミュレーションを行う。 妊婦の健康診査のシミュレーションを行う。 （実習11日目） 実習での経験を振り返り、自己の学びをまとめる。文献などでエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い、学びを深める。								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	講義で使用したテキストおよび授業資料								